

2012年3月期 連結決算ハイライト (後発事象による修正版)

■中期経営計画“S-Project”2年目も順調に進捗

- ◇売上高は 10,064 億円 前期比 7.4%増収
- ◇営業利益は 214 億円 前期比 18.8%増益
- ◇経常利益は 178 億円 前期比 24.5%増益
- ◇当期純利益は税金費用増加により減益

損益の状況

(単位:億円)	2011/3期 通期実績	2012/3期 通期実績	前期比		2013/3期 通期	
			増減額	増減率	見通し	前期比 増減率
売上高	9,369	10,064	695	7.4%	10,500	4.3%
売上総利益	769	809	40	5.2%	-	-
販売費・一般管理費	589	595	6	1.0%	-	-
営業利益	180	214	34	18.8%	200	-6.7%
受取配当金	12	8	△4	-	-	-
利息収支	△38	△36	2	-	-	-
持分法損益	△4	3	6	-	-	-
為替差損	△4	△6	△1	-	-	-
その他	△4	△5	△1	-	-	-
営業外収支	△38	△37	1	-	-	-
経常利益	143	178	35	24.5%	160	-9.9%
特別利益	11	3	△8	-	-	-
特別損失	△24	△45	△22	-	-	-
税金等調整前当期純利益	130	135	5	3.8%	-	-
法人税等及び少数株主利益	△39	△74	△36	-	-	-
当期純利益	92	61	△31	-33.4%	80	30.9%

【売上高・売上総利益】
取扱量の増加、商品価格の高騰により、食品・食糧、環境・素材セグメントを中心に売上高が増加。これに伴い売上総利益も増益。

【営業利益】
売上総利益の増加と、販売費及び一般管理費の増加抑制に引き続き努めた結果、増益。

【経常利益】
受取配当金の減少や為替差損の増加があった一方、利息収支や持分法による投資損益の改善により、営業外収支はやや良化。営業利益の増加もあり増益。

【当期純利益】
特別損失として投資有価証券売却損・評価損、関係会社整理損および子会社において厚生年金基金脱退損失を計上。また、税制改正にともなう繰延税金資産の取り崩しにより税金費用が増加したことなどから、減益。

【2013年3月期見通し】
売上高・当期純利益は増収増益を見込む。

資産・負債及び純資産の状況

(単位:億円)	2011年3月末	2012年3月末	2011年3月末比	
			増減	増減率
総資産	3,887	3,998	111	2.9%
グロス有利子負債	1,736	1,608	△128	-7.4%
ネット有利子負債	1,046	900	△146	-14.0%
株主資本	637	698	61	9.6%
(内、利益剰余金)	89	150	61	68.3%
その他の包括利益累計額	△306	△308	△2	-
少数株主持分	165	170	5	3.1%
純資産合計	496	560	64	12.9%
自己資本(注1)	331	390	59	17.8%
自己資本比率(注2)	8.5%	9.8%	1.3pt改善	-
ネットDER(注3)	3.2倍	2.3倍	0.9pt改善	-

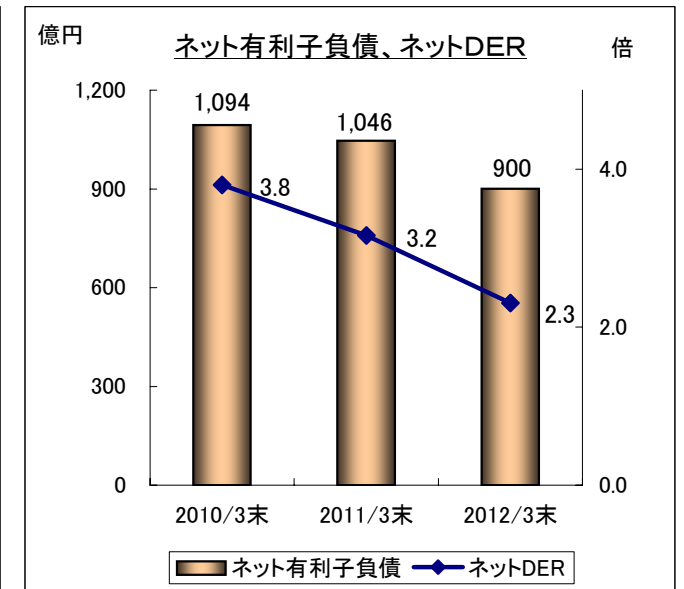
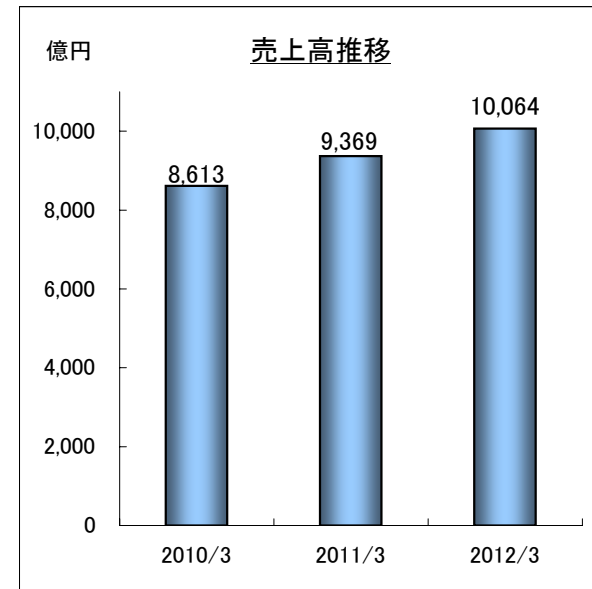
【総資産】
111億円増加し、3,998億円。

【有利子負債】
借入金の返済により、グロス有利子負債は128億円減少、ネット有利子負債も146億円減少。

【純資産】
当期純利益による利益剰余金の積み上げ等により、純資産は64億円増加。純資産から少数株主持分を除いた自己資本は、59億円増加。

その結果、自己資本比率は9.8%、ネットDERは2.3倍に改善。

(注1)自己資本=純資産-少数株主持分 (注2)自己資本比率=自己資本/総資産 (注3)ネットDER=ネット有利子負債/自己資本



(単位:億円)	売上高(外部売上高)			営業利益		
	2011/3期 通期実績	2012/3期 通期実績	前期比 増減	2011/3期 通期実績	2012/3期 通期実績	前期比 増減
電子・IT	2,539	2,531	△7	95	90	△5
食品・食糧	2,719	2,921	203	28	52	24
鉄鋼	988	991	3	34	36	2
機械・プラント	673	704	31	11	14	4
環境・素材	2,275	2,737	462	10	20	10
報告セグメント合計	9,193	9,885	692	178	212	35
その他(含む調整額)	176	179	3	3	2	△1
総合計	9,369	10,064	695	180	214	34

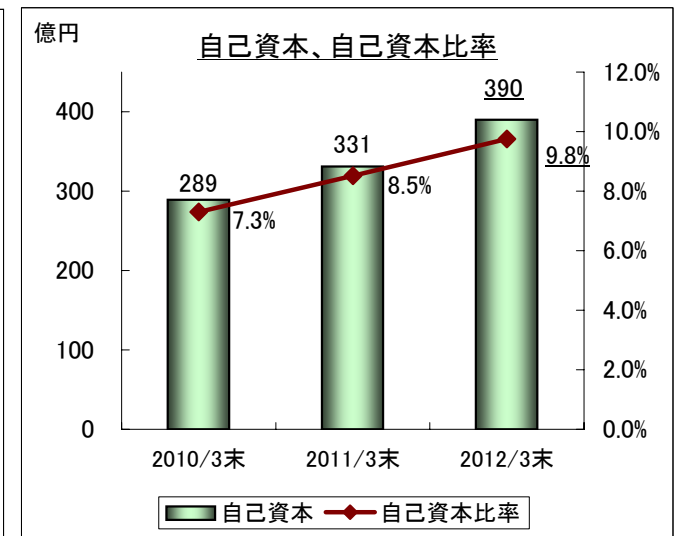
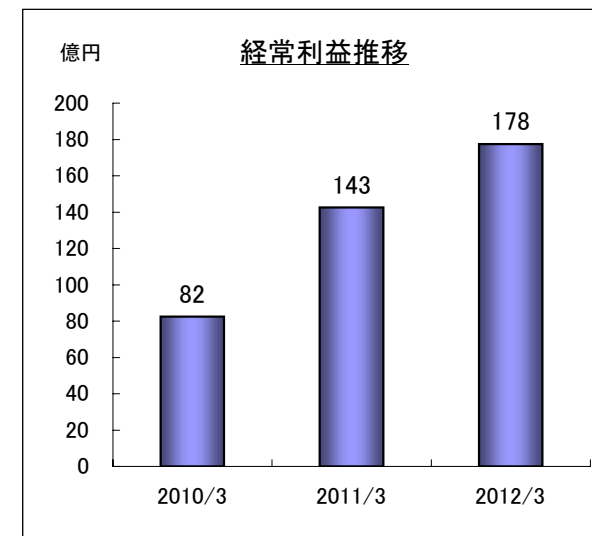
【電子・IT】: 減収減益
スマートフォンやタブレット端末等の市場拡大を受け、ICT・モバイルソリューション事業は好調に推移。一方、半導体部品・製造装置の需要落ち込みを受け、半導体事業は苦戦。

【食品・食糧】: 増収増益
輸入畜産物の販売が底堅く推移したことに加え、需給環境が安定していた食品事業は調理食品や加工食品等を中心に好調に推移。食糧事業は、飼料販売における取引先との関係強化および販路拡大への取組みが奏功し、収益に貢献。

【鉄鋼】: 増収増益
欧米向け自動車用特殊鋼および米国・アジア向け特殊鋼・ステンレス製品の輸出が堅調に推移。

【機械・プラント】: 増収増益
プラント関連取引は、ODA関連のプロジェクトが増加し、大きく改善。工作機械事業は、国内の工作機械の需要回復に支えられ堅調に推移。

【環境・素材】: 増収増益
車載用電池原料の輸出および医薬品原料の輸入取引が堅調に推移。エネルギー事業は、電力会社向け重油販売増加を背景に収益に貢献。



* 本資料に記載されている業績予想ならびに将来に関する記述は、当社が発表日現在入手可能な情報および合理的な仮定に基づいた推測を前提としたものであり、実際の業績は様々な要因により本資料に記載されたものと大きく異なる可能性があることにご留意ください。
* 表示の数値は億円未満を四捨五入しておりますので、個別数値と合計数値・増減額が一致しない場合があります。